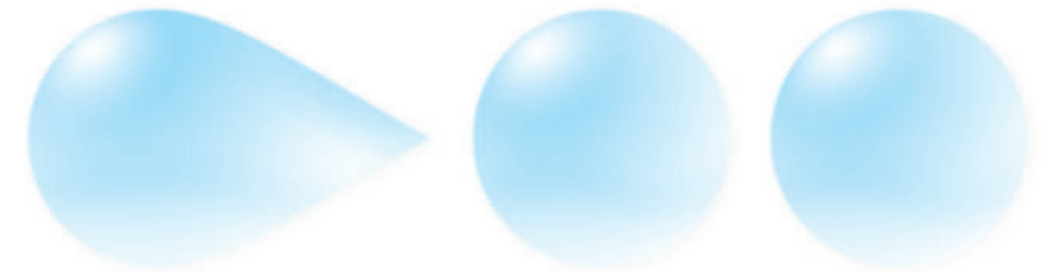


株式についてのご案内	
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日
	期末配当 3月31日
	中間配当 9月30日
単元株式数	1,000株
株券に関する手数料	株式名義書換 無料 新券交付 株券1枚につき210円 (消費税額等を含む)
公告方法	電子公告 公告掲載アドレス http://www.organo.co.jp/ ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。
株主名簿管理人	〒105-8574 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
同 取 次 所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店・全国各支店
上場証券取引所	東京証券取引所 (市場第一部)

株式に関するお手続き用紙のご請求方法
住所変更、単元未満株式買取請求、単元未満株式買増請求、名義書換請求及び配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、下記株主名簿管理人中央三井信託銀行のフリーダイヤル又はホームページをご利用ください。
●フリーダイヤル 0120-87-2031 (24時間受付：自動音声案内)
●ホームページアドレス http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

オルガノ ホームページ
ホームページでは、IR情報などをご提供しております。

Ecologically Clean



オルガノ株式会社

〒136-8631 東京都江東区新砂1-2-8
経営企画部 TEL.03-5635-5111

ホームページアドレス <http://www.organo.co.jp/>



オルガノ株式会社

Ecologically Clean

オルガノはEcologically Cleanを企業コンセプトとして、「人と人とのふれあい」と「人と環境との調和」を大切にしています。



代表取締役社長

橋本喜代志

1. 当連結会計年度の概況

株主の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜わり厚く御礼申し上げます。さて、平成18年3月31日をもちまして当社の第61期営業年度（平成17年度）を終了いたしましたので、ここに当社グループの事業の概況についてご報告申し上げます。

当連結会計年度における日本経済は、電力事業や公共事業において需要の落ち込みが続いているものの、全体として着実な歩みを進めておりました。特に当社グループに関連の深い民間設備投資は、第2四半期から活発化した電子産業関連分野を中心に、高い水準で推移しました。

従いまして、全般的な経営環境は順調でしたが、資材価格の高騰が長期化する傾向も見られ、当社グループのビジネス環境は、引き続き厳しい状況にありました。

このような状況において、当社グループはグループ経営の強化と高収益体質への進化を目標に、国内外の製造拠点・販売拠点の整備などを実施し、コストダウン、ソリューション事業・機能商品事業の拡大、新技術・新商品の開発等に取り組んでまいりました。

以上のような対策の結果、当連結会計年度の受注高は75,452百万円（前連結会計年度比0.2%増）、売上高は75,700百万円（同2.5%減）となりました。また利益

面につきましては、徹底的なコスト管理等により、経常利益は4,376百万円（同43.4%増）、当期純利益は2,090百万円（同15.9%増）となりました。

セグメント別の状況は次のとおりであります。

<水処理装置事業>

当事業は、電力・官公需向けプラント建設の減少等の影響を受け、受注高58,774百万円（前連結会計年度比0.6%減）、売上高59,602百万円（同2.3%減）となりました。

<薬品事業>

当事業は、電力向けの受注が増える一方、電子産業向け薬品の販売、食品添加剤の販売等が減少し、受注高16,678百万円（前連結会計年度比3.2%増）、売上高16,097百万円（同2.9%減）となりました。

当期の利益配当金につきましては、配当に対する基本方針及び当期の業績その他、諸般の状況等を勘案いたしまして、期末配当金は中間配当金と同じく1株当たり4円とさせていただきます。これにより、中間配当金を含めた当期の年間配当金は1株当たり8円となりました。

2. 次期の見通し

資材価格高騰の長期化等の懸念材料もありますが、全般的な経営環境は改善していくと予想され、今後も徹底的なコスト管理を継続することから、次期の業績見通しといたしましては、売上高78,000百万円（前連

結会計年度比3.0%増）、経常利益5,500百万円（同25.7%増）、当期純利益3,200百万円（同53.1%増）を見込んでおります。

3. 課題と対策

過去2年間、当社グループのビジネス環境は、劇的な変化を起こしました。即ち、長年にわたって当社グループの中核を担ってきた電力事業や官公需の長期的な需要減退が現実化するとともに、社会・経済界におけるコンプライアンス意識の浸透と、企業活動の社会的責任が重視されるようになったことでもあります。

このため、新たな環境に適応するための自己変革に挑戦し、次の成長のための基礎を創出することが喫緊の課題であります。

現在、需要変化への対応策として新技術・新製品開発をベースとしたソリューション事業や機能商品事業の強化、コストダウンと並行したプラント事業の収益改善を掲げて各種施策を実行に移すとともに、第61期から個別のビジネスや業務を「選択と集中」の概念で見直しております。

4. 最後に

高収益体質への進化を遂げる当社グループにご期待いただきますとともに、株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成18年6月

●連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

科 目	当 期 (平成18年3月31日現在)	前 期 (平成17年3月31日現在)
資 産 の 部		
流 動 資 産	46,824	54,795
固 定 資 産	29,719	30,617
資 産 合 計	76,543	85,413
負債、少数株主持分及び資本の部		
流 動 負 債	32,113	41,341
固 定 負 債	10,055	11,781
負 債 合 計	42,168	53,122
少 数 株 主 持 分	308	243
資 本	8,225	8,225
資 本 剰 余 金	7,508	7,500
利 益 剰 余 金	17,437	15,912
株 式 等 評 価 差 額 金	1,060	653
為 替 換 算 調 整 勘 定	△ 72	△ 152
自 己 株 式	△ 93	△ 91
資 本 合 計	34,066	32,047
負債、少数株主持分及び資本合計	76,543	85,413

●連結剰余金計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期 (平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)	前 期 (平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)
資 本 剰 余 金 期 首 残 高	7,500	7,500
資 本 剰 余 金 増 加 高	7	—
自 己 株 式 処 分 差 益	7	—
資 本 剰 余 金 期 末 残 高	7,508	7,500
利 益 剰 余 金 期 首 残 高	15,912	14,639
利 益 剰 余 金 増 加 高	2,090	1,803
当 期 純 利 益	2,090	1,803
利 益 剰 余 金 減 少 高	564	530
配 当 金	462	462
役 員 賞 与	66	68
連結会社の増加に伴う利益剰余金減少高	36	—
利 益 剰 余 金 期 末 残 高	17,437	15,912

●連結損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

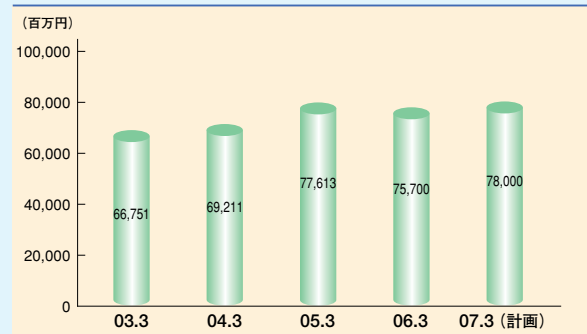
科 目	当 期 (平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)	前 期 (平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)
経 常 損 益 の 部		
売 上 高	75,700	77,613
売 上 原 価	56,974	60,238
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	14,401	14,280
営 業 利 益	4,324	3,094
営 業 外 収 益	274	220
営 業 外 費 用	222	264
経 常 利 益	4,376	3,050
特 別 損 益 の 部		
特 別 利 益	201	140
特 別 損 失	288	302
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益	4,289	2,888
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	1,054	1,328
過 年 度 法 人 税 等	391	—
法 人 税 等 調 整 額	715	△ 267
少 数 株 主 利 益	37	23
当 期 純 利 益	2,090	1,803

●連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

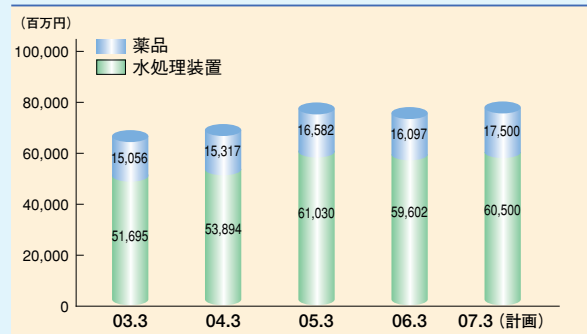
(単位：百万円)

科 目	当 期 (平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)	前 期 (平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)
営 業 活 動 に よ る キャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	4,269	△ 571
投 資 活 動 に よ る キャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	△ 1,298	△ 1,469
財 務 活 動 に よ る キャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	△ 3,622	953
現 金 及 び 現 金 同 等 物 に 係 る 換 算 差 額	31	15
現 金 及 び 現 金 同 等 物 の 減 少 額	△ 620	△ 1,072
現 金 及 び 現 金 同 等 物 の 期 首 残 高	5,705	6,777
新 規 連 結 に 伴 う 現 金 及 び 現 金 同 等 物 の 増 加 額	40	—
現 金 及 び 現 金 同 等 物 の 期 末 残 高	5,125	5,705

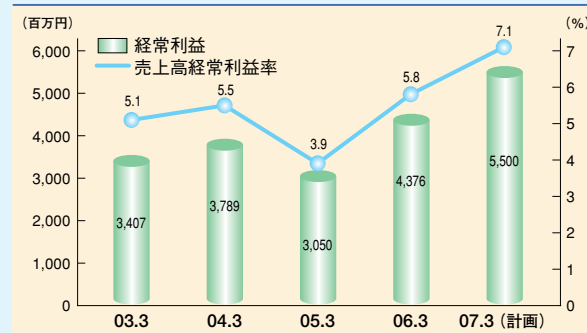
● 売上高



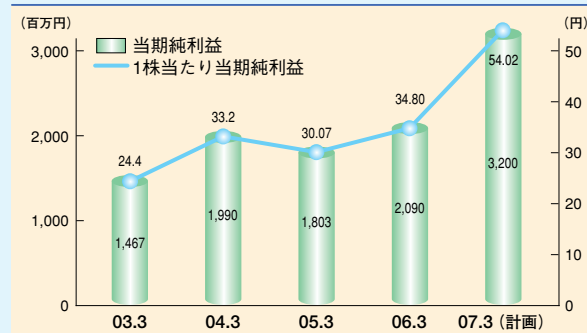
● セグメント別売上高



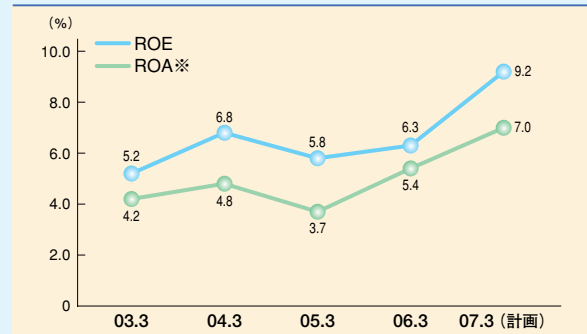
● 経常利益 / 売上高経常利益率



● 当期純利益 / 1株当たり当期純利益

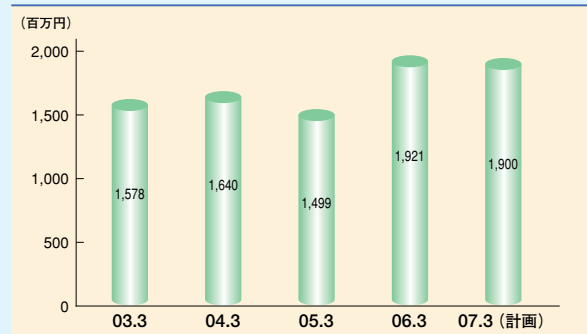


● ROE / ROA



※総資産経常利益率

● 技術研究費



● 貸借対照表 (要旨)

(単位: 百万円)

科目	当期 (平成18年3月31日現在)	前期 (平成17年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	38,619	48,105
固定資産	27,486	28,333
資産合計	66,105	76,438
負債・資本の部		
流動負債	27,819	37,992
固定負債	8,688	10,238
負債合計	36,508	48,230
資本金	8,225	8,225
資本剰余金	7,508	7,500
利益剰余金	12,910	11,923
株式等評価差額金	1,046	650
自己株式	△ 93	△ 91
資本合計	29,597	28,208
負債及び資本合計	66,105	76,438

● 損益計算書 (要旨)

(単位: 百万円)

科目	当期 (平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)	前期 (平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)
経常損益の部		
売上高	60,826	65,706
売上原価	47,616	53,324
販売費及び一般管理費	10,524	10,715
営業利益	2,686	1,666
営業外収益	606	369
営業外費用	197	218
経常利益	3,095	1,816
特別損益の部		
特別利益	192	138
特別損失	223	268
税引前当期純利益	3,064	1,686
法人税、住民税及び事業税	493	814
過年度法人税等	382	—
法人税等調整額	711 △	275
当期純利益	1,477	1,147
前期繰越利益	535	579
中間配当額	231	231
当期末処分利益	1,782	1,495

● 利益処分

(単位: 百万円)

科目	当期 (平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)	前期 (平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)
当期末処分利益	1,782	1,495
これを次のとおり処分いたします。		
利益配当金 (1株につき)	231 (4円)	230 (4円)
役員賞与金 (うち監査役賞与金)	36 (3)	29 (3)
別途積立金	1,000	700
次期繰越利益	515	535

(注) 平成17年12月5日に231百万円(1株につき4円)の中間配当を実施いたしました。

●スーパーカミオカンデの完全再開 =オルガノの超純水 給水開始=

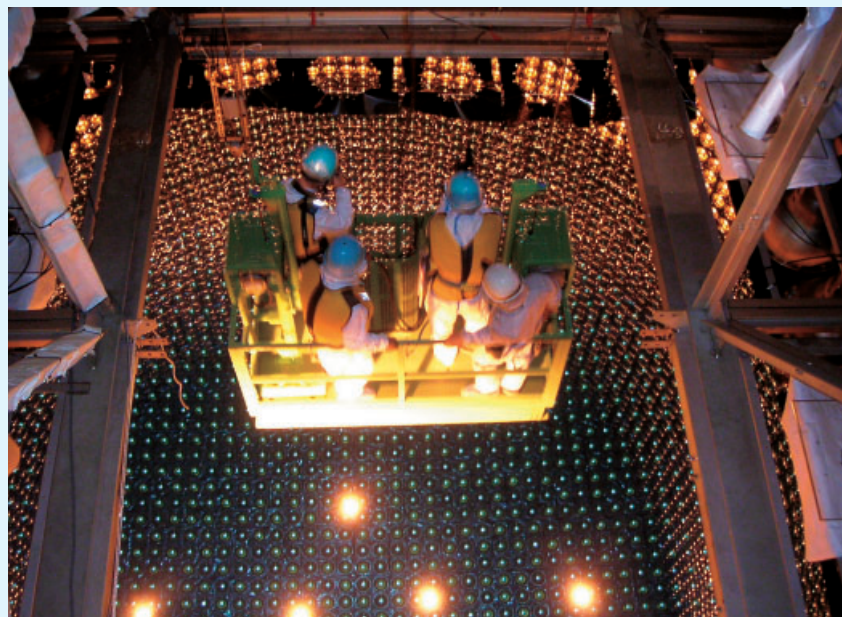
2001年11月に11,200本のうち、約7,000本の光電子増倍管を破損した事故から約5年の時を経て、スーパーカミオカンデが完全再建を迎えます。

オルガノの超純水が充填された検出器内を取材することができました。

<ニュートリノとは?>

2002年ノーベル物理学賞を受賞された小柴博士は、宇宙からやってくるニュートリノを検出し、ニュートリノを放出する天体现象、ニュートリノ自体の謎を解き明かす道を切り開かれました。

ニュートリノとは、物質を構成している最小の粒子です。電荷がなく、ほぼ光速で宇宙空間を飛んでおり、どんな物質でもすり抜けますが、質量を持つことがスーパーカミオカンデによって1998年に発見されました。



超純水で満たされる前の水槽の中をゴンドラで上から数メートル下りて撮影

ニュートリノの観測は、太陽のエネルギー発生が正しいかという「太陽エネルギー機構の解明」、「超新星爆発機構の解明」、ビッグバンから始まった「宇宙初期の解明」や素粒子物理学の分野では謎の多い「大統一理論」の検証のために行われています。

<スーパーカミオカンデとは?>

「スーパーカミオカンデ」とは、ニュートリノ観測装置の名前です。スーパーカミオカンデは、富山県と岐阜県の県境に近い飛騨山中にある神岡鉱山の「池の山」の頂上から直下1,000mに位置します。

地上ではさまざまな微弱宇宙線が降り注いでいますが、この山が強固な岩盤であることに加えて、地下1,000mでは、宇宙線量が激減し、観測に必要な宇宙線を排除することができるため、山の中の地下にあります。

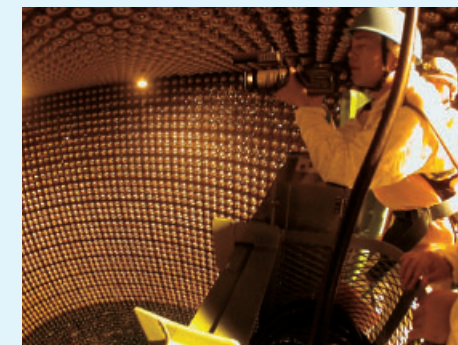
<オルガノの装置との関係は?>

ニュートリノをキャッチするため、50,000㎡のオルガノの超純水を使います。この検出器は円筒形で直径39.3m、高さ41.4mもあり、常に超純水で満たされています。検出器の内側には一面に光センサー「光電子増倍管」が取り付けられています。

事故調査を経て2005年7月より開始したスーパーカミオカンデの完全再建作業は順調に進み、2006年6月末に50,000㎡の超純水で検出器内が満たされると、本来の性能を取り戻したスーパーカミオカンデによるニュートリノ観測、陽子崩壊の探索が再スタートします。



池の山・跡津通洞坑口から車で入山



検出器内の光電子増倍管

● 産業広告賞をダブル受賞

昨年度の日本産業広告賞（日刊工業新聞主催）とフジサンケイビジネスアイ広告賞（フジサンケイビジネスアイ主催）において、電気再生式純水装置をテーマとした「エジソンさん、21世紀の発明ですよ」の広告は第1席と金賞をダブル受賞しました。

この装置は従来困難であったシリカ成分の高い日本の水質に合わせた無薬品型純水装置（D2EDI）です。純水をつくるためのイオン交換樹脂を電気再生し、薬品を全く使用しないことが最大の特徴です。

また、食品用、医療用も考慮した耐熱仕様も用意しており、エレクトロニクス関連をはじめ、多方面に多くの実績が拡大しています。



●オルガノ・テクノロジーを台湾に設立

台湾ビジネスの更なる拡大のためのステップとして、顧客サービスをより一層強化するため、平成17年7月1日台湾新竹市に子会社を設立しました。新会社の主要業務は、納入装置のメンテナンスや改造工事です。

既存の台湾支店は新設装置の営業・納入業務を主体とし、台湾における各種水処理設備の設計、販売に加え、生産及びメンテナンスサービスを一段と強化し、新会社と協力して台湾ビジネスを全面的に展開いたします。

●新タイプの純水装置を開発

半導体関連を中心とした中型機器へのニーズに対応するため、ろ過装置から最新の無薬品型純水装置（D2EDI）までを組み込んだ「中型純水ユニットMPU」を開発しました。また、大型純水装置をユニット化した「ストラタSGX」シリーズも新たに開発いたしました。

いずれの装置も標準ユニット化を進めており、工事期間を大幅に短縮できるため、工場の早期稼働に貢献いたします。



(写真は中型純水ユニットMPU)

●健康食品シリーズ新発売

健康な毎日を過ごすためには、「規則的な生活」「1日30品目の食事」「ストレスを溜めない生活」「適度な運動」など、さまざまなことが言われています。オルガノは、皆様の健康な生活を少しでもお手伝いできるようにと、健康食品、栄養補助食品の新シリーズを発売しました。

オリーブポリフェノールの含有量が多いサプリメントオレストシリーズ、納豆キナーゼ配合の明日葉カプセル、朝の快適なお目覚めに適した「おやすみブラーミ」などをはじめ、各種取り揃えました。

皆様のお身体にあった健康食品、栄養補助食品をお召し上がりください。



(写真は明日葉カプセル)

水処理関連薬品

オルガノの水処理薬品は安全性と信頼性を重視し、ビル空調用、ボイラ用、洗浄用、排水処理用など多用途にわたっています。

〈技術製品〉

ボイラ水処理薬品、冷却水処理薬品、洗浄薬品、排水処理薬品、飲料水処理薬品、薬品注入関連装置、サニテーションケミカルズ、HACCP関連装置

産業プロセス関連設備

有価物の分離・精製、なかでも新JOクロマト分離装置は画期的多成分分離システムとして好評をいただいています。

〈技術製品〉

糖液脱色精製装置、各種溶液精製・濃縮装置、クロマト分離装置

サービス事業

水処理エンジニアリングを支援する高度分析からモニタリング、コンサルティング、プラントの監視システムまで広くサービス事業を展開しています。

〈技術製品〉

高度分析と評価、有害物質・生活環境項目水質分析、モニタリング、レジオネラ対策、環境ホルモン対策、納入装置メンテナンス、プラント監視システム

上下水道関連設備

ライフラインと呼ばれる上下水道施設のうち、上水道施設では、膜などを利用した最新の技術でおいしくて安全な水をつくります。また、下水道施設では、使った水を浄化し、安全で快適な環境を創ります。

〈技術製品〉

凝集沈殿装置、急速ろ過装置、活性炭ろ過装置、膜型浄水装置、高度処理装置、下水処理装置、脱臭装置、ポンプ設備、汚泥処理装置、下水再利用装置

食品加工材

食生活も多様化が進み、便利で豊かな新しい食生活が実感できるようになりました。オルガノの食品加工材は食生活の向上に寄与しています。

〈技術製品〉

食添製剤、糊料、食品素材

標準型水処理機器関連設備

電子産業からレジャー施設にいたるまでさまざまなニーズに応じて標準化された最新機器で最適な水づくりを提案します。

〈技術製品〉

純水装置シリーズ、軟水装置シリーズ、ろ過装置シリーズ、ユニット形超純水装置、サブシステム、小型超臨界水酸化装置、各種フィルタ、ホモジナイザ、蒸留器、各種水質計測器

産業用水処理設備

水は産業界を支える重要な役割を持っています。特に超純水技術は半導体や液晶などエレクトロニクス産業の分野や火力・原子力発電所などでは欠かすことのできない重要な技術です。食品分野、医療・製薬分野をはじめ、すべての産業界でのニーズに合った水処理システムを提供しています。

〈技術製品〉

軟水装置、純水装置、超純水装置、復水ろ過脱塩装置、機能水製造装置、無菌純水装置、蒸留水製造装置、海水淡水化装置、超高速ろ過装置

環境関連設備

〈産業排水処理関連設備〉

あらゆる産業から発生する排水を適切に処理し環境に還します。また、一切排水を出さないクローズドシステムは環境への負荷がほとんどありません。

〈技術製品〉

工場排水処理装置、発電所排水処理装置、産業排水回収再利用装置、中水道設備、生活排水処理装置、脱窒脱りん高度処理装置、半導体工場クローズドシステム、清掃工場排水処理装置、浸出汚水処理装置、ゴルフ場農業除去装置

〈地下水・土壌浄化関連設備〉

近年問題となっている有機塩素化合物などによる地下水汚染や土壌汚染問題に調査から設計、浄化までトータルに取り組んでいます。

〈技術製品〉

地下水浄化装置、排ガス処理装置、土壌汚染調査システム、土壌ガス浄化装置、バイオレメディエーション

〈廃棄物処理関連設備〉

廃棄物の処理は地球環境の問題です。PCBをはじめとした難分解性有害化学物質の完全分解が可能な超臨界水酸化技術は時代が求めている処理技術です。

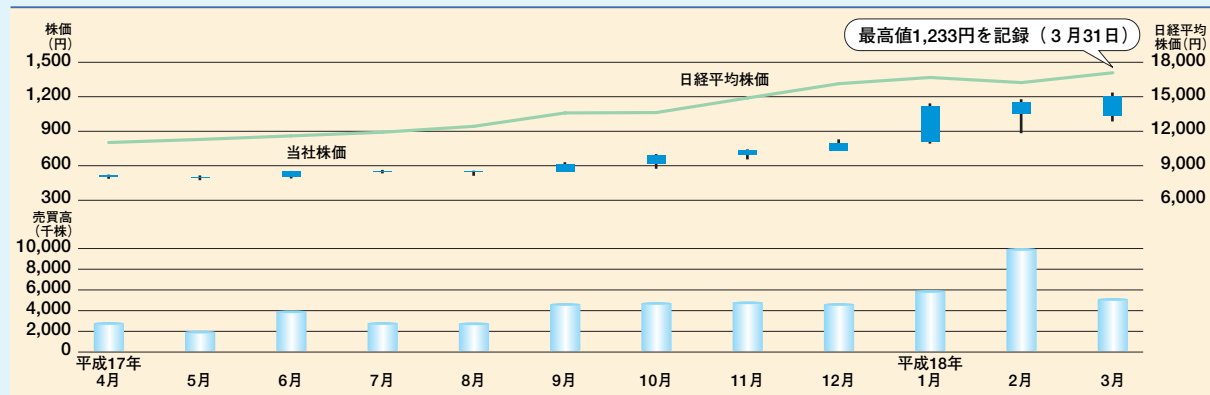
〈技術製品〉

超臨界水酸化装置

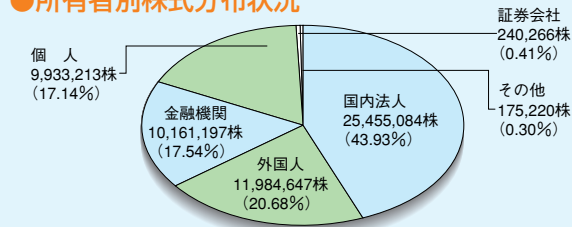
- 会社が発行する株式の総数 126,960,000株
- 発行済株式総数 57,949,627株
- 株主総数 5,477名
- 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
東ソー株式会社	23,877	41.20
モルガン・スタンレー・アンド・カンパニー・インターナショナル・リミテッド	2,599	4.48
株式会社みずほ銀行	1,773	3.06
ピクテアンドシーヨーロッパエスエー	1,627	2.80
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,622	2.79
ザ・チェース・マンハッタンバンク・エヌエイ・ロンドン	1,102	1.90
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,036	1.78
ユービーエス・エイジー・ロンドンアジア・エクイティーズ	987	1.70
バンク・オブ・ニューヨーク・ジーシー・エム・クライアント・アカウント・サービス	912	1.57
みずほ信託銀行株式会社	775	1.33

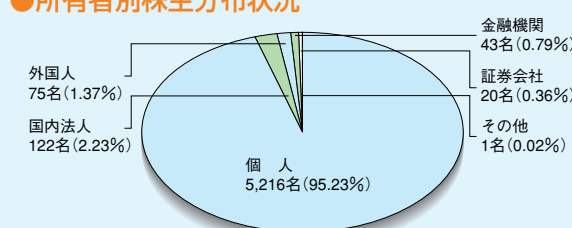
● 株価及び売買高の推移



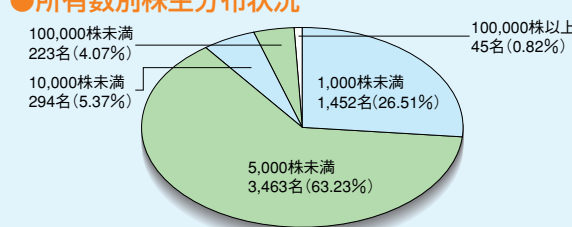
● 所有者別株式分布状況



● 所有者別株主分布状況



● 所有数別株主分布状況



- 創 業
- 資 本 金
- 主要な事業所

昭和21年5月1日
 8,225,499,312円
 本社
 本郷別館
 札幌支店
 仙台支店
 名古屋支店
 大阪支店
 広島支店
 福岡支店
 台湾支店
 つくば工場
 いわき工場
 幸手工場
 長崎事業所
 周南事業所
 開発センター

● 主要な事業内容

当社は総合水処理エンジニアリング会社として、イオン交換樹脂、分離膜、活性炭等を使用する各種用排水処理装置の製造、販売及びメンテナンス並びに各種薬品類の製造、販売を主な事業としております。

● 役員

*取締役会長	傳田正彦
*取締役社長	橋本喜代志
取締役専務執行役員	中川博勝
取締役兼常務執行役員	近藤昭夫
取締役兼常務執行役員	田中康彦
取締役兼常務執行役員	鬼頭和夫
取締役兼執行役員	飯塚廣朗
取締役	佐々木博朗
常勤監査役	太期敏之
常勤監査役	宮島正行
監査役	堀古孝一
監査役	川村克彦

(注) *印は代表取締役であります。

● グループ会社

(国内)	北海道オルガノ商事株式会社	北海道
	東北オルガノ商事株式会社	宮城県
	東京オルガノ商事株式会社	東京都
	中部オルガノ商事株式会社	愛知県
	関西オルガノ商事株式会社	大阪府
	九州オルガノ商事株式会社	福岡県
	オルガノプラントサービス株式会社	東京都
	オルガノダニスコフードテクノ株式会社	東京都
	山下薬品工業株式会社	広島県
	オルガノ・ハイテック有限会社	山口県
	環境テクノ株式会社	東京都
	オルガノアクティ株式会社	東京都
	東北電機鉄工株式会社	山形県

(海外現地法人)

Organo (Asia) Sdn. Bhd.	マレーシア
オルガノ奥加諾(蘇洲)水処理有限公司	中国
オルガノ・テクノロジー奥璐佳璫科技股份有限公司	台湾
Organo (Singapore) Pte. Ltd.	シンガポール
オルガノ奥加諾(上海)水処理有限公司	中国
Ortec Chemical Co., Ltd	ベトナム
Organo (Thailand) Co., Ltd.	タイ
Organo (UK) Ltd.	イギリス
PT. Organo Indonesia	インドネシア
Organo (Philippines) Inc.	フィリピン